

皮膚科

主な対象疾患

良性皮膚腫瘍：粉瘤、脂肪腫、色素性母斑（ほくろ）など

皮膚悪性腫瘍：基底細胞癌、有棘細胞癌、悪性黒色腫、乳房外パジェット病など

皮膚感染症：丹毒・蜂窩織炎、帯状疱疹、壊死性筋膜炎やガス壊疽など

広範囲熱傷や植皮が必要な熱傷

難治性の乾癬、アトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹、円形脱毛症、天疱瘡や水疱性類天疱瘡、多汗症、化膿性汗腺炎（慢性膿皮症）、ざ瘡、痒疹・湿疹、褥瘡など

全身性エリテマトーデスや皮膚筋炎などの膠原病に関しては、診断後に近隣の膠原病内科へご紹介いたします。

診療科の特徴

皮膚の病気であれば、common diseaseを含め何でも診ます。皮膚科入院病床は5床あります。蜂窩織炎や帯状疱疹などの入院加療に加え、壊死性筋膜炎を含めた重症軟部組織感染症も切断に至らない例では切開排膿やデブリドマンを救急科と協力して行っています。

県内の皮膚科でも、当院は有数の手術件数を誇り、皮膚生検・粉瘤やほくろなどの小腫瘍の日帰り切除は毎日2件程度（年間病理検体提出件数約500件）、皮膚悪性腫瘍の切除や、その再建のための植皮、局所皮弁形成術などは中央手術室を利用し自科で数多く行っています。大きな再建術や熱傷などの広範囲の植皮が必要な際は、形成外科の先生と協力して行っています。

悪性黒色腫や有棘細胞癌などでは、RIと色素法を用いたセンチネルリンパ節生検も行っています。単径リンパ節郭清や腋窩リンパ節郭清も自科で行っています。悪性黒色腫に対する免疫チェックポイント阻害薬の投与も必要な患者さんに行っております。

接触皮膚炎の原因検索として必要に応じパッチテストなどを施行します。金属に対するパッチテストは、標準シリーズに含まれるものならば可能です。

難治性の円形脱毛症に対しては、SADBEによる接触免疫療法やステロイド局注療法を施行しています。広範囲脱毛の早期例ではステロイドセミパルス療法も行っています。

乾癬や難治性の痒疹などに対しては、ナローバンドUVBの全身紫外線照射装置による治療も可能です。乾癬への生物学的製剤使用認定施設であり、数多くの導入実績があります。アトピー性皮膚炎に対するデュピルマブや、蕁麻疹に対するオマリズマブ導入も必要な患者さんに行っています。

水疱性類天疱瘡などの自己免疫性水疱症の加療では、ステロイド投与に加えて難治例では免疫グロブリン大量療法も行っています。

レーザー治療を要する血管腫や青色母斑などは、当院に機器がないため他院へのご紹介となります。乳児血管腫（いちご状血管腫）に対するプロプラノール内服療法は、小児科と協力して行っています。

メッセージ

高齢社会により、皮膚悪性腫瘍も増加傾向にあります。皮膚科では、ダーモスコピーという特殊な拡大鏡を用いて、切除せずとも臨床診断で良性の脂漏性角化症なのか基底細胞癌などの悪性腫瘍なのかある程度鑑別可能です。

切除後も自分たちで病理のプレパラートを確認することから、病理診断にも長けていますので、良性・悪性の判断はもちろん、悪性でも過不足のない適切な切除が行えたか常に確認しています。

気になる皮膚腫瘍はぜひ皮膚科へご紹介ください。

主任医長
伊藤 周作

診療実績

1. 2021年 外来患者数延 11,266名

2. 中央手術室での手術件数

	件数
皮膚悪性腫瘍切除術	32
植皮術	26
良性皮膚腫瘍切除術	23
皮弁作成術	8
鼠径リンパ節郭清術	0
膝窩リンパ節郭清術	0
腋窩リンパ節郭清術	0
センチネルリンパ節生検	2
その他(デブリドマンなど)	9

※おのおの重複あり

3. 皮膚科入院統計

	件数
皮膚腫瘍 悪性腫瘍 良性腫瘍	65 8
皮膚感染症	41
薬疹	1
自己免疫性水疱症	19
脱毛症/無汗症	15
熱傷	5
その他	18
合計	173

医師紹介

主任医長 伊藤 周作 (いとう しゅうさく)

1998年 筑波大学医学専門学群卒
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

主任医長 本田 理恵 (ほんだ りえ)

2001年 慶應義塾大学医学部卒
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

医員 四十竹 麗 (あいたけ うらら)

医員 前田 朱美 (まえだ あけみ)

2018年 筑波大学医学群医学類卒

◆お問い合わせ◆

(株)日立製作所日立総合病院

地域医療連携室

〒317-0077 茨城県日立市城南町二丁目1番1号

TEL: 0294-23-8343

FAX: 0294-23-8412